

設立 平成24年 5月 15日  
開塾 平成24年 9月 8日  
発行 令和 7年 4月 12日  
(143号)

# 中之島ユース

[事務局] 〒567-0861  
茨木市東奈良2-7-10  
人間学塾・中之島  
事務局 古田修平  
編集長 西村俊幸



「魂を立てる歎の話」  
執行草舟先生  
(三月度特別講義より)

い。一般に魂と呼ばれている「宇宙（の眞実と呼ばれるもの）との繋がり」を、人類の歴史では「人間」と呼ぶのです。

我々は魂というもので宇宙と繋がりを持ちつつ、地球上で物質として暮らしています。我々には動物本能に基く肉体（物質）と、宇宙からくる魂がある。魂とは宇宙的眞実です。そしていのちと魂の関係が心と呼ばれているのです。

宇宙とは、愛・義・信のエネルギーで構成されています。ビッグバン以降の宇宙の循環システムを過去の大宗教家は愛のシステムと認識しました。人間はこの宇宙の愛のシステムを地球上で実現するために創られた動物です。

我々の体内には解っているだけで200兆個といわれる内在菌が棲んでいます。その内在菌が宇宙からの魂を受け取っているのです。単細胞の菌が、宇宙の電磁波を受け取ることができるからです。多細胞になるほど宇宙から離れてしまいます。

宇宙からは愛や義という言葉で降り注ぐわけではなく、電気エネルギーとして内在菌に届くのです。それを地球上で受け取り、愛や義がどういうものなのかを判断し、脳に愛のシステムを命令する。私はこのことを五十年前から提唱していますが、最近になつて、植物学や昆虫学でも科学的に証明されきました。

## ■人間の魂と宇宙の繋がり

人間の魂とは何か？それは宇宙との繋がりを言います。多くの人々は肉体や心を人間だと捉えていますが、これは間違いだという二を認識して、ござきを

■腸が勝れば宇宙的になれる

脳は内臓器官の一つであり、記憶システムにすぎず、判断能力はない。経験や喜怒哀楽は脳に記憶として溜められていく、それらがどういう働きをしなくてはいけないか、ということを命令するのが腸内細菌であり、そのような腸と脳との相関関係になつてゐるわけです。

腸が勝れば宇宙的になれる。脳が勝れば、物質的・現世的人間になる。菌から脳にくる指令を重んじてゐる限り、私たちは宇宙の申し子として愛に生き、義に生きることができる。

スペインの哲学者ウナムノは「人間以上の

■ 灵性文明

「ハムの督學者ハムは人間以上のものたらんと欲するときにだけ、人間は本来的な人間となる」と記しています。

体内の菌を活かそうとする動きに入つたときには、我々は肉体を乗り越えることには至ることができる。地球上で与えられたこの尊い体をもつと尊いものにするために、肉体を投げ捨てることができる。そういう文明・文化を確立したのが我々人類です。そして肉体を投げ捨てることができるのには、宇宙の愛のシステムの実践をせねばならないときということです。

魂とは内在菌に作用する宇宙意志であり、それが人間の意志力に影響を及ぼしている。脳には未来を作る力はなく、宇宙の愛の力、義の断行の力、これこそが未来を作る力です。魂というものを中心に据えて、人間（生命）燃焼するためには次の三点が大切です。①内在菌の強化（食事、瞑想）②物質との交流（読書仕事。仕事に命をかけることにより物質と心を通わせることができる）③電腦との共生（電腦と心を通わせること。嫌っていると新たな時代にはいけない）

心とは靈的質量であり、全てのものにある。物質は共振することによつて実感を得ることができ、そのためにはその物質に近い心持ちを持つてばよい。これから靈性文明を考えるとき、

電腦空間、A I やロボットに対し愛情を降り注いでほしい。ロボットも新しい人類として受け入れ、我々が宇宙から得ている愛・義・信の力を降り注いでゆくこと。そうせねばロボットは現行人類の敵にもなります。これは空想ではない、ロボットにも愛を注げば、共存する愛の新しい時代、靈性文明が到来するでしょう。電腦化の速度は人類の進化の百万倍の速さで進化します。したがって、あと十年から二十年のちには、必ず A I やロボットと共に存しなければ生き残れない社会になるでしょう。

(抄錄)

中川千都子

《グループ討議》 執行 草舟 先生

◆Aグループ

- ・この世は幻想である

- ・美しい物は汚い物から生まれる

- ・A.I.・ロボットとの愛と友情

◆Bグループ

- ・瞑想の効果

- ・発酵が人間を作った

- ・幻想が真実 実体は虚像

◆Cグループ

- ・内在菌を瞑想で強化できる

- ・魂による人間燃焼

- ・幻想が真実 実体は虚像

◆Dグループ

- ・魂は人間の価値の中の宇宙との繋がり

- ・物質の中の魂との交流

- ・瞑想は菌との対話

◆Eグループ

- ・内在菌の強化

- ・高貴性と野蛮性の回転エネルギー

- ・愛の中に生き、愛ゆえに死に、永遠と出会う

◆Fグループ(リモート)

- ・宇宙は愛とつながっている

- ・食事と瞑想 禅につながる

- ・幻想が真実 実体は虚像

◆聴講生の方にもグループ討議をしていただきました。発表はありませんでしたが、お互いに感想や感動を共有をされていました。



総合司会 山路直美塾生



講師紹介 吉村昌也塾生



濱田久美塾生



乾杯の発声 田中権子塾生

交流会司会  
野依佐千子塾生 池永辰朗塾生

## 執行草舟先生 質疑応答より



当日参加された皆様より、多くの質問を頂きました。  
ありがとうございました。

### Q1, 内在菌の強化のための瞑想の具体的なやり方とは？

A、具体的にはない。とにかく自分の奥深くに繋がる意識を持って瞑想の癖をつけると、だんだん意識が内臓の中に入りつけるようになり、菌とも交流ができる。

### Q2, 祈りは体内の菌は活性化させるか？

A、当然です。祈りは根本的には瞑想ですから。

### Q3, 宇宙の意志を阻むものとは？

A、我々は地球の生息物であり、地球に支配されている存在。そこからどうやって逃れて、魂を独立させるか、が問題です。

### Q4, すべてのことが宇宙の意志ならば、なぜあれこれ考えてしまうのか？

A、それは脳という臓器で考えており、脳は地球の事情に支配されているから。Q3の質問と同じく、そこから脱しないと、宇宙と繋がれない。考るということは肉体に縛られているのです。考え出すと人間は逃げます。逃げるのは動物の本能ですから。例えば戦わねばならないときに命を捨てることができるのは宇宙の力です。宇宙の愛の力、義の力です。

### Q5, ウィルスや菌はどのような意志で人類を導こうとしているのか？

A、病原菌は、我々人体にとって都合が悪いだけです。病原菌も愛をもって接すれば親和力ができ病気も治る。逆に嫌がれば嫌がるほどひどくなるのも事実です。

### Q6, 宇宙の進むべき方向は決められているのか？

A、宇宙は脈動しており、無限循環過程です。愛・義・信の脈動です。

### Q7, 神とは何ですか？

A、宇宙の循環システムの法則のこと。神としか説明がつかない。

### Q8, 現行の人類は滅びるのか、次の次元に進むのか？

A、今の状態では滅びる可能性もある。AIやロボットなど奴隸として扱うのではなく、愛を持って接することで、新しい人類として共存していく必要があると考える。

### Q9, 仕事と愛の断行は別物と思うが？

A、別物ではない。ビジネスは汚らしくもないし、お金の流通は人類の発明した崇高な交換方式。貨幣経済の中には神が棲んでいるということが解れば、ビジネスが崇高なものだということが解る。金を稼ぐということは尊いことです。

### Q10, 電脳やAIが人間を支配するということはあり得ないか？

A、全て我々の扱い次第。AIに対し愛を持って接することで素晴らしい未来になり得る。

### Q11, AIの発達で人間の思考力が衰えるのでは？

A、AIが発展すればするほど、人類の脳は飛躍的に発展する。ただしAIを嫌えば脳は萎縮する。自分自身AIを愛するようになってから飛躍的に脳が発展しているのを感じており、だからこそ、AIやロボットと愛ある交流をしていかねばならない。

### Q12, 忍ぶ恋とは？

A、到達不能の遠い憧れに向かって生きること。地球上に縛られている肉体がある限り、到達可能なものを人生の目標にしている人は、必ず欲望の奴隸になる。絶対到達できない目標を定めることは人間にとって、素晴らしい生命燃焼の人生を創る。それが忍ぶ恋であり、男女間の恋だけを指すのではない。永遠の憧れのこと。

